



謹賀新年

株式会社 トモグリーンケミカル
第154号 2019年01月07日発行

当社Webサイトにて
バックナンバー掲載中
<http://www.tomo-green.com/>

旧年中は、弊社商品をご愛用頂きまして誠にありがとうございました。
本年も界面活性剤を始めとした管理資材や技術力で、
ターフメンテナンスのサポートに務めさせて頂きますので、
変わらぬご支援頂けますようお願い申し上げます。



01月・02月の管理ポイント

レボ (REVO)



冬も水管理は大切です

冬場は降雨量散水量が減り土壌中の水分が少なくなりがちです。空気も乾燥しているので、土壌の乾燥が思っている以上に早く進んでしまいます。土壌が乾燥すると、土壌中にある有機物が強い撥水を示すようになり、急激に土壌の撥水が進んでしまうので、冬場でも適度な土壌水分を保持し続けることが重要です。界面活性剤を処理することで適度な土壌水分を保持し続けやすくなります。特にレボは地際の水分を低めに、根圏の気相を十分にとりつつ、適度な水分を保持し続けることが出来ます。

使用量：2ml/m²/月 散布水量：200ml~500ml/m² 散布回数：1ヶ月に1回~2回



ドライの治療剤

アクアダクト

発生してしまったドライスポットに、アクアダクトを処理すると回復を早めることができます。安全性が高いので安心してご使用いただけます。

ドライスポット・乾燥・フェアリーリング枯れ症状に 初回処理量：2.5ml 水量：100ml~1ℓ
回復の状態を見ながら1週間後に 2回目 1.25~2.5ml処理



ブースター
(導入剤)として

グリーンシナジー

グリーンシナジーは根圏土壌の隅々まで水を届ける働きがあるので、肥料、ミネラル、糖、アミノ酸…などと混用すれば、水と一緒に養分も根圏の隅々まで行き渡ります。
与えた養分を無駄なくベントに届けるには、グリーンシナジーのご使用がお勧めです。

使用量：1-2ml/m²/月 散布水量：100ml-1ℓ/m² 使用方法：資材の散布時にタンクミックス



芝生の耐乾性
耐寒性を高めましょう

リーフシールド

リーフシールドで茎葉部をコーティングすると、蒸散を抑制し、芝の乾燥を防ぐと共に葉面温度の低下を軽減出来ます。着色剤と組み合わせると、葉面温度が上昇し霜が早く溶けます。

希釈倍率：200-400倍 散布水量：100~300ml/m²

● 撥水土壌の発生メカニズム

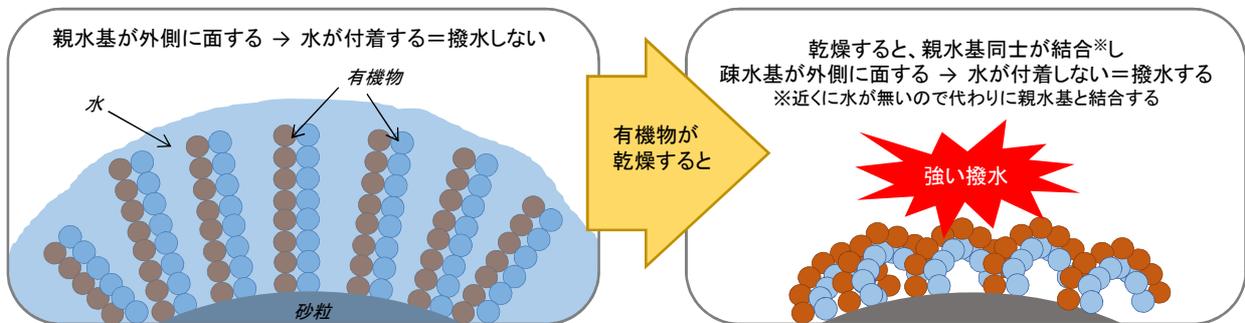
土壌中の有機物※が乾燥すると、土壌は強い撥水を示すようになります。 湿潤と乾燥を繰り返す事でさらに撥水は強くなります。 ※目に見える大きさの有機物だけでなく、砂粒にへばりついている小さな有機物も含まれます

冬場は、土壌が乾燥しやすい条件が揃っています

- ・ 降水量が少ない
- ・ 散水の頻度が少ない
- ・ 空気が乾燥しているため土壌からの蒸発量は意外に多い
- ・ 土壌水分が低下していることが分かり難く乾燥がより進んでしまう
(生育スピードが低下している植物は変化が分かり難い)

▼有機物が、撥水しない状態から 撥水する状態に変化する様子

水とくっつきやすい性質の部分(親水基 ●) 水と反発しやすい性質の部分(疎水基 ●)



● 土壌の撥水を低く抑えておく方法

どのような土壌にも有機物が含まれているので必ず撥水しますが、有機物を乾燥させない(=土壌を乾燥させない)ことで、撥水を低く抑えておくことが出来ます。

既に土壌が撥水している場合、土壌が乾燥しやすく散水が追いつかない場合、凍結が気になる場合などは土壌用界面活性剤を上手く利用すると管理しやすくなります。

下図は、撥水土壌に土壌用界面活性剤希釈液および水を滴下した様子です(滴下量は同量)。界面活性剤を土壌に処理することで、土壌(有機物)が湿潤しやすくなるため、撥水予防に効果的です。

水を滴下した場合



界面活性剤希釈液を滴下した場合



冬場に進んだ撥水は非常に強く、回復させることが困難です。土壌を乾燥させ過ぎない様に気を付け、撥水を予防することが大切です。